

高等養護学校に在籍する生徒の実態把握調査

「学習面や行動面における困難についての調査表」

【学習面・行動面の困難さに関する簡単な説明】

●学習面における困難さ

「学習面における困難さ」とは、聞く・話す・読む・書く・計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。

ここで言う「学習面における困難さ」は、視覚障害・聴覚障害・情緒障害(心因的なもの)などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない。

●行動面における困難さ([不注意][多動性-衝動性])

ここで言う「行動面における困難さ([不注意][多動性-衝動性])とは、年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び/又は衝動性、多動性を特徴とする行動面の困難さで、社会的な活動や学業の機能に継続的に支障をきたすものである。

●行動面における困難さ(対人関係やこだわりなど)

ここで言う「行動面における困難さ(対人関係やこだわりなど)」とは、①他人との社会的関係の形成の困難さ、②コミュニケーション(他者との意思疎通)に関わる困難さ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわる傾向を特徴とする行動面の困難さ、である。

【基礎情報】

学校名 : _____高等養護学校 学年 [1年 ・ 2年 ・ 3年]

所属科 : _____科 (記入漏れに注意!!)

ID番号 : [_____] (記入漏れに注意!!)
(生徒調査票のID番号、在籍生徒ID照合表の番号と同じ番号を記入)

評定者 : 主評定者名 [_____]

☆本調査表の評定については、対象生徒の全体像をよく知る教員1名が中心となり、各項目内容に関する生徒の様子を知る別の教員との最低2名の協議に基づいて評定をして下さいますよう、お願い申し上げます。

☆本調査表はA3で裏表ありますので、両面とも記入して下さい。
またすべての項目記入後、本面の「生徒の基礎情報」「主評定者名」を含めて、すべての項目について記入漏れがないか、2名の評定者で再チェック願います。

「学習面・行動面に困難さを持つ児童に関する質問票」

<学習面における困難さ>

番号(得点)については、ない・・・「0」、まれにある・・・「1」、ときどきある・・・「2」、よくある・・・「3」とします。対象生徒について、該当する数字に○印をつけて下さい。

・聞き違いがある(例:「知った」を「行った」と聞き違える)	0	1	2	3
・聞きもらしがある	0	1	2	3
・個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい	0	1	2	3
・指示の理解が難しい	0	1	2	3
・話し合いが難しい(例:話し合いの流れが理解できず、ついていけない)	0	1	2	3
・適切な速さで話すことが難しい(例:たどたどしく話す。とても早口である)	0	1	2	3
・ことばにつまったりする	0	1	2	3
・単語を羅列したり、短い文で内容的に乏しい話をする	0	1	2	3
・思いつくままに話すなど、筋道の通った話をするのが難しい	0	1	2	3
・内容をわかりやすく伝えることが難しい	0	1	2	3
・初めて出てきた語や、普段あまり使わない語などを読み間違える	0	1	2	3
・文中の語句や行を抜かしたり、または繰り返し読んだりする	0	1	2	3
・音読が遅い	0	1	2	3
・勝手読みがある(例:「いきました」を「いました」と読む)	0	1	2	3
・文章の要点を正しく読み取ることが難しい	0	1	2	3
・読みにくい字を書く(例:字の形や大きさが整っていない。まっすぐに書けない)	0	1	2	3
・独特の筆順で書く	0	1	2	3
・漢字の細かい部分を書き間違える	0	1	2	3
・句読点が抜けたり、正しく打つことができない	0	1	2	3
・限られた量の作文や、決まったパターンの文章しか書かない	0	1	2	3
・学年相応の数の意味や表し方についての理解が難しい(例:三千四十七を300047や347と書く。分母の大きい方が分数の値として大きいと思っている)	0	1	2	3
・簡単な計算が暗算できない	0	1	2	3
・計算をするのにとても時間がかかる	0	1	2	3
・答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい (例:四則混合の計算、2つの立式を必要とする計算)	0	1	2	3
・学年相応の文章題を解くのが難しい	0	1	2	3
・学年相応の量を比較することや、量を表す単位を理解することが難しい (例:長さやかさの比較。「15cmは150mm」ということ)	0	1	2	3
・学年相応の図形を描くことが難しい (例:丸やひし形などの図形の模写。見取り図や展開図)	0	1	2	3
・事物の因果関係を理解することが難しい	0	1	2	3
・目的に沿って行動を計画し、必要に応じてそれを修正することが難しい	0	1	2	3
・早合点や、飛躍した考えをする	0	1	2	3

<行動面における困難さ([不注意][多動性-衝動性])>

番号(得点)については、ない/ほとんどない・・・「0」、ときどきある・・・「1」、しばしばある・・・「2」、非常にしばしばある・・・「3」、とします。対象生徒について、該当する数字に○印をつけて下さい。

・学校での勉強で、細かいところまで注意を払わなかったり、不注意な間違いをした りする	0	1	2	3
・手足をそわそわ動かしたり、着席しても、もじもじしたりする	0	1	2	3
・課題や遊びの活動で注意を集中し続けることが難しい	0	1	2	3
・授業中や座っているべき時に席を離れてしまう	0	1	2	3
・面と向かって話しかけられているのに、聞いていないようにみえる	0	1	2	3
・きちんとしていなければならない時に、過度に走り回ったりよじ登ったりする	0	1	2	3
・指示に従えず、また仕事を最後までやり遂げない	0	1	2	3
・遊びや余暇活動に大人しく参加することが難しい	0	1	2	3
・学習課題や活動を順序だてて行うことが難しい	0	1	2	3
・じっとしていない。または何かに駆り立てられるように活動する	0	1	2	3
・集中して努力を続けなければならない課題(学校の勉強や宿題など)を避ける	0	1	2	3
・過度にしゃべる	0	1	2	3
・学習課題や活動に必要な物を無くしてしまう	0	1	2	3
・質問が終わらない内に出し抜けて答えてしまう	0	1	2	3
・気が散りやすい	0	1	2	3
・順番を待つのが難しい	0	1	2	3
・日々の活動で忘れっぽい	0	1	2	3
・他の人がしていることをさえぎったり、じゃましたりする	0	1	2	3

<行動面における困難さ(対人関係上の問題やこだわりなど)>

番号(得点)については、いいえ…「0」、多少…「1」、はい…「2」、とします。

対象生徒について、該当する数字に○印をつけて下さい。

・大人びている。ませている	0	1	2
・みんなから、「〇〇博士」「〇〇教授」と思われている(例:カレンダー)	0	1	2
・他の子どもは興味を持たないようなことに興味があり、「自分だけの知識世界」を持っている	0	1	2
・特定の分野の知識は蓄えているが、丸暗記であり、意味をきちんとは理解していない	0	1	2
・含みのある言葉や嫌みを言われても分からず、言葉通りに受け止めてしまうことがある	0	1	2
・会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、間合いが取れなかつたりすることがある	0	1	2
・言葉を組み合わせて、自分だけにしかわからないような造語を作る	0	1	2
・独特な声で話すことがある	0	1	2
・誰かに何かを伝える目的がなくても、場面に関係なく声を出す (例:唇を鳴らす、咳払い、喉を鳴らす、叫ぶ)	0	1	2
・とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある	0	1	2
・いろいろな事を話すが、その時の場面や相手の感情や立場を理解しない	0	1	2
・共感性が乏しい	0	1	2
・周りの人が困惑するようなことも、配慮しないで言うてしまう	0	1	2
・独特な目つきをすることがある	0	1	2
・友達と仲良くしたいという気持ちはあるけれど、友達関係をうまく築けない	0	1	2
・友達のそばにはいるが、一人で遊んでいる	0	1	2
・仲の良い友人がいない	0	1	2
・常識が乏しい	0	1	2
・球技やゲームをする時、仲間と協力することに考えが及ばない	0	1	2
・動作やジェスチャーが不器用で、ぎこちないことがある	0	1	2
・意図的でなく、顔や体を動かすことがある	0	1	2
・ある行動や考えに強くこだわることによって、簡単な日常の活動ができなくなることもある	0	1	2
・自分なりの独特な日課や手順があり、変更や変化を嫌がる	0	1	2
・特定の物に執着がある	0	1	2
・他の子どもたちから、いじめられることがある	0	1	2
・独特な表情をしていることがある	0	1	2
・独特な姿勢をしていることがある	0	1	2

「学習面や行動面の困難さについての調査表」は以上です。

すべての項目について記入漏れがないか再チェック願います。

ご協力、ありがとうございました。

平成17年度 高等養護学校卒業生

平成17年度調査での軽度H群該当の生徒 進路に関する実態調査票

回答者名： _____

設問1. 下記の卒業生徒（軽度H群_該当）の所属科とID番号、および生年月日と性別をご確認下さい。

- 1) 所属科 [_____ 科]
- 2) ID番号= _____
- 3) 生年月日・性別 [_____年 _____月 _____日生 / 男子・女子]

設問2. 卒業後の進路について、以下の質問にお答え下さい。

- 1) 該当する卒業後の進路に○をつけてください → [一般就労 ・ 福祉的就労 ・ 進学 ・ その他]
(卒業時に就労しなかった場合は、「その他」に該当します。)

☆ 本設問で「一般就労」に○をつけた場合 → 設問3. に進んでください。

- 2) 福祉的就労をした場合 → 以下のa), b)で質問終了です。
 - a) 就労先種別は、[通所施設 () / 入所施設 ()] である。
 - b) 一般就労できなかった理由を、調査別紙の選択肢群Aから記号で記入下さい。(複数可)
[_____]
(s)の場合 → [_____]
- 3) 進学した場合 → 以下のa), b)で質問終了です。
 - a) 進学先は、[能力開発センター () / 専門学校 () / 高等専門学校 ()
/ 短期大学 () / 4年生大学 () / その他の教育機関 ()] である。
その他の教育機関の具体名は? → [_____]
 - b) 該当教育機関に進学した具体的理由を記入下さい。
[_____]
- 4) その他の進路の場合 → 卒業時に就労しなかった場合は、a), b)記入後、設問5に進んでください。
 - a) 具体的進路内容を記入下さい [_____]
 - b) 卒業時に就労しなかった場合は、その理由を、調査別紙の選択肢群Aの中から記号で記入下さい。(複数可)
[_____]
(s)の場合 → [_____]

設問3. 卒業時の一般就労先について

- 1) 一般就労先の詳細 [_____] (調査別紙の選択肢群Bから該当する数字を記入下さい)
[25] の場合 → 具体的な業種名を記入下さい [_____]
- 2) 具体的な作業内容 [_____]
- 3) 賃金 [時給 : _____ 円]

設問4. 卒業時の一般就労に関わる雇用促進援護制度の活用について (各選択肢のいずれかを○囲みして下さい)

- 1) 利用したか否かについて? [利用した ・ していない]
- 2) 利用した場合の制度はどちらですか? [職場適応訓練制度 ・ トライアル雇用]
- 3) 職場適応訓練制度を利用した場合、その期間はどちらですか? [半年 ・ 一年]

設問5. 卒業後の就労状況経過について

☆ 対象卒業生の卒業時の就労状況に応じて、①、②、③の何れかに進んでください。 ☆

① 卒業時の就労に何らかの雇用促進援護制度（職適やトライアル雇用など）を利用した場合（1-1, 1-2）

（1-1）雇用促進援護制度終了時～その後6ヶ月までの期間について

- a) この期間の就労状況 → [就労維持 () → (1-2)へ / 離職あり () → b)へ]
離職ありの場合 → その理由を、調査別紙の選択肢群Aの中から記号で記入下さい。(複数可)
[]
(s)の場合 → []
- b) この期間での再就職 → [できた () → c, d)へ / できなかった () → c)へ]
- c) 再就職に関わる就労支援に携わった支援機関の具体名をお書き下さい(複数可)
[]
- d) この期間で再就職できた場合 → 就労タイプは [一般就労 () / 福祉的就労 ()]
・就労先の詳細 [] (調査別紙の選択肢群Bから該当する数字を記入下さい)
[25]の場合 → 具体的な業種名を記入下さい []
・作業内容 [] / 賃金 [時給 :] 円 []

（1-2）雇用促進援護制度終了後6ヶ月～2007/10/20までの期間について（制度利用が6ヶ月以下の場合）

- a) この期間の就労状況
→ [就労維持 () / 離職あり () → b)へ / 求職中 () → b)へ]
離職ありの場合 → その理由を、調査別紙の選択肢群Aの中から記号で記入下さい。(複数可)
[]
(s)の場合 → []
- b) この期間での再就職 → [できた () → c, d)へ / できなかった () → c)へ]
- c) 再就職に関わる就労支援に携わった支援機関の具体名をお書き下さい(複数可)
[]
- d) この期間で再就職できた場合 → 就労タイプは [一般就労 () / 福祉的就労 ()]
・就労先の詳細 [] (調査別紙の選択肢群Bから該当する数字を記入下さい)
[25]の場合 → 具体的な業種名を記入下さい []
・作業内容 [] / 賃金 [時給 :] 円 []

①に進まれた方へ。

本調査票の質問項目は以上です。ご協力ありがとうございました。

☆☆☆ ② または ③ に進まれる方への質問項目は裏面にあります。 ☆☆☆

② 卒業時の就労に雇用促進援護制度を利用しなかった場合。(2-1, 2-2, 2-3)

(2-1) 卒業時から卒業後6ヶ月時点までの期間について

a) この期間の就労状況 → [就労維持 () → (2-2)へ / 離職あり () → b)へ]

離職ありの場合 → その理由を、調査別紙の選択肢群Aの中から記号で記入下さい。(複数可)

[]

(s)の場合 → []

b) この期間での再就職 → [できた () → c, d)へ / できなかった () → c)へ]

c) 再就職に関わる就労支援に携わった支援機関の具体名をお書き下さい(複数可)

[]

d) この期間で再就職できた場合 → 就労タイプは [一般就労 () / 福祉的就労 ()]

・就労先の詳細 [] (調査別紙の選択肢群Bから該当する数字を記入下さい)

[25]の場合 → 具体的な業種名を記入下さい []

・作業内容 [] / 賃金 [時給 : 円]

(2-2) 卒業後6ヶ月時点から卒業後1年時点までの期間について

a) この期間の就労状況

→ [就労維持 () → (2-3)へ / 離職あり () → b)へ / 求職中 () → b)へ]

離職ありの場合 → その理由を、調査別紙の選択肢群Aの中から記号で記入下さい。(複数可)

[]

(s)の場合 → []

b) この期間での再就職 → [できた () → c, d)へ / できなかった () → c)へ]

c) 再就職に関わる就労支援に携わった支援機関の具体名をお書き下さい(複数可)

[]

d) この期間で再就職できた場合 → 就労タイプは [一般就労 () / 福祉的就労 ()]

・就労先の詳細 [] (調査別紙の選択肢群Bから該当する数字を記入下さい)

[25]の場合 → 具体的な業種名を記入下さい []

・作業内容 [] / 賃金 [時給 : 円]

(2-3) 卒業後1年時点から2007/10/20までの期間について

a) この期間の就労状況

→ [就労維持 () / 離職あり () → b)へ / 求職中 () → b)へ]

離職ありの場合 → その理由を、調査別紙の選択肢群Aの中から記号で記入下さい。(複数可)

[]

(s)の場合 → []

b) この期間での再就職 → [できた () → c, d)へ / できなかった () → c)へ]

c) 再就職に関わる就労支援に携わった支援機関の具体名をお書き下さい(複数可)

[]

d) この期間で再就職できた場合 → 就労タイプは [一般就労 () / 福祉的就労 ()]

・就労先の詳細 [] (調査別紙の選択肢群Bから該当する数字を記入下さい)

[25]の場合 → 具体的な業種名を記入下さい []

・作業内容 [] / 賃金 [時給 : 円]

②に進まれた方へ。

本調査票の質問項目は以上です。ご協力ありがとうございました。

③ 卒業時に就労していない場合 (3-1, 3-2, 3-3)

(3-1) 卒業時から卒業後6ヶ月時点までの期間について

a) この期間での再就職 → [できた () → b,c)へ / できなかった () → b)へ]

b) 再就職に関わる就労支援に携わった支援機関の具体名をお書き下さい (複数可)

[]

c) この期間で再就職できた場合 → 就労タイプは [一般就労 () / 福祉的就労 ()]

・就労先の詳細 [] (調査別紙の選択肢群Bから該当する数字を記入下さい)

[25] の場合 → 具体的な業種名を記入下さい []

・作業内容 [] / 賃金 [時給 : 円]

(3-2) 卒業後6ヶ月時点から卒業後1年時点までの期間について

a) この期間の就労状況

→ [就労維持 () → (3-3)へ / 離職あり () → b)へ / 求職中 () → b)へ]

離職ありの場合 → その理由を、調査別紙の選択肢群Aの中から記号で記入下さい。(複数可)

[]

(s)の場合 → []

b) この期間での再就職 → [できた () → c,d)へ / できなかった () → c)へ]

c) 再就職に関わる就労支援に携わった支援機関の具体名をお書き下さい (複数可)

[]

d) この期間で再就職できた場合 → 就労タイプは [一般就労 () / 福祉的就労 ()]

・就労先の詳細 [] (調査別紙の選択肢群Bから該当する数字を記入下さい)

[25] の場合 → 具体的な業種名を記入下さい []

・作業内容 [] / 賃金 [時給 : 円]

(3-3) 卒業後1年時点から2007/10/20までの期間について

a) この期間の就労状況

→ [就労維持 () / 離職あり () → b)へ / 求職中 () → b)へ]

離職ありの場合 → その理由を、調査別紙の選択肢群Aの中から記号で記入下さい。(複数可)

[]

(s)の場合 → []

b) この期間での再就職 → [できた () → c,d)へ / できなかった () → c)へ]

c) 再就職に関わる就労支援に携わった支援機関の具体名をお書き下さい (複数可)

[]

d) この期間で再就職できた場合 → 就労タイプは [一般就労 () / 福祉的就労 ()]

・就労先の詳細 [] (調査別紙の選択肢群Bから該当する数字を記入下さい)

[25] の場合 → 具体的な業種名を記入下さい []

・作業内容 [] / 賃金 [時給 : 円]

③に進まれた方へ。

本調査票の質問項目は以上です。ご協力ありがとうございました。

平成 17 年度 高等養護学校卒業生

平成 17 年度調査での軽度 H 群非該当の一般就労卒業生 進路に関する実態調査票

回答者名： _____

設問 1. 該当する卒業生徒（軽度 H 群非該当で一般就労）の所属科と ID 番号、生年月日と性別をご記入下さい。

- 1) 所属科 [_____ 科]
- 2) ID 番号 = _____
- 3) 生年月日・性別 [_____ 年 _____ 月 _____ 日生 / 男子・女子]

設問 2. 卒業時の一般就労先について

- 1) 一般就労先の詳細 [] (調査別紙の選択肢群 B から該当する数字を記入下さい)
[25] の場合 → 具体的な業種名を記入下さい []
- 2) 具体的な作業内容 []
- 3) 賃金 [時給 : _____ 円]

設問 3. 卒業時の一般就労に関わる雇用促進援護制度の活用について (各選択肢のいずれかを○囲みして下さい)

- 1) 利用したか否かについて? [利用した ・ していない]
- 2) 利用した場合の制度はどちらですか? [職場適応訓練制度 ・ トライアル雇用]
- 3) 職場適応訓練制度を利用した場合、その期間はどちらですか? [半年 ・ 一年]

設問 4. 卒業後の就労状況経過について

☆ 対象卒業生の卒業時の就労状況に応じて、①、②の何れかに進んでください。 ☆

① 卒業時の就労に何らかの雇用促進援護制度（職適やトライアル雇用など）を利用した場合（1-1, 1-2）

(1-1) 雇用促進援護制度終了時～その後 6 ヶ月までの期間について

- a) この期間の就労状況 → [就労維持 () → (1-2)へ / 離職あり () → b)へ]
離職ありの場合 → その理由を、調査別紙の選択肢群 Aの中から記号で記入下さい。(複数可)
[_____]
(s)の場合 → [_____]
- b) この期間での再就職 → [できた () → c, d)へ / できなかった () → c)へ]
- c) 再就職に関わる就労支援に携わった支援機関の具体名をお書き下さい (複数可)
[_____]
- d) この期間で再就職できた場合 → 就労タイプは [一般就労 () / 福祉的就労 ()]
・就労先の詳細 [] (調査別紙の選択肢群 Bから該当する数字を記入下さい)
[25] の場合 → 具体的な業種名を記入下さい [_____]
・作業内容 [_____] / 賃金 [時給 : _____ 円]

(1-2) 雇用促進援護制度終了後6ヶ月～2007/10/20までの期間について(制度利用が6ヶ月以下の場合)

a) この期間の就労状況

→ [就労維持 () / 離職あり () → b) へ / 求職中 () → b) へ]

離職ありの場合 → その理由を、調査別紙の選択肢群Aの中から記号で記入下さい。(複数可)

[]

(s)の場合 → []

b) この期間での再就職 → [できた () → c, d) へ / できなかった () → c) へ]

c) 再就職に関わる就労支援に携わった支援機関の具体名をお書き下さい(複数可)

[]

d) この期間で再就職できた場合 → 就労タイプは [一般就労 () / 福祉的就労 ()]

・就労先の詳細 [] (調査別紙の選択肢群Bから該当する数字を記入下さい)

[25]の場合 → 具体的な業種名を記入下さい []

・作業内容 [] / 賃金 [時給 : 円]

①に進まれた方へ。

本調査票の質問項目は以上です。ご協力ありがとうございました。

② 卒業時の就労に雇用促進援護制度を利用しなかった場合。(2-1, 2-2, 2-3)

(2-1) 卒業時から卒業後6ヶ月時点までの期間について

a) この期間の就労状況 → [就労維持 () → (2-2) へ / 離職あり () → b) へ]

離職ありの場合 → その理由を、調査別紙の選択肢群Aの中から記号で記入下さい。(複数可)

[]

(s)の場合 → []

b) この期間での再就職 → [できた () → c, d) へ / できなかった () → c) へ]

c) 再就職に関わる就労支援に携わった支援機関の具体名をお書き下さい(複数可)

[]

d) この期間で再就職できた場合 → 就労タイプは [一般就労 () / 福祉的就労 ()]

・就労先の詳細 [] (調査別紙の選択肢群Bから該当する数字を記入下さい)

[25]の場合 → 具体的な業種名を記入下さい []

・作業内容 [] / 賃金 [時給 : 円]

(2-2) 卒業後6ヶ月時点から卒業後1年時点までの期間について

a) この期間の就労状況

→ [就労維持 () → (2-3) へ / 離職あり () → b) へ / 求職中 () → b) へ]

離職ありの場合 → その理由を、調査別紙の選択肢群Aの中から記号で記入下さい。(複数可)

[]

(s)の場合 → []

b) この期間での再就職 → [できた () → c, d) へ / できなかった () → c) へ]

c) 再就職に関わる就労支援に携わった支援機関の具体名をお書き下さい(複数可)

[]

- d) この期間で再就職できた場合 → 就労タイプは [一般就労 () / 福祉的就労 ()]
・就労先の詳細 [] (調査別紙の選択肢群Bから該当する数字を記入下さい)
[25] の場合 → 具体的な業種名を記入下さい []
・作業内容 [] / 賃金 [時給 : 円]

(2-3) 卒業後1年時点から2007/10/20までの期間について

- a) この期間の就労状況
→ [就労維持 () / 離職あり () → b) へ / 求職中 () → b) へ]
離職ありの場合 → その理由を、調査別紙の選択肢群Aの中から記号で記入下さい。(複数可)
[]
(s)の場合 → []
- b) この期間での再就職 → [できた () → c, d) へ / できなかった () → c) へ]
- c) 再就職に関わる就労支援に携わった支援機関の具体名をお書き下さい(複数可)
[]
- d) この期間で再就職できた場合 → 就労タイプは [一般就労 () / 福祉的就労 ()]
・就労先の詳細 [] (調査別紙の選択肢群Bから該当する数字を記入下さい)
[25] の場合 → 具体的な業種名を記入下さい []
・作業内容 [] / 賃金 [時給 : 円]

②に進まれた方へ。

本調査票の質問項目は以上です。ご協力ありがとうございました。

平成 18 年度 高等養護学校卒業生

平成 18 年度調査での軽度 H 群該当の卒業生徒 進路に関する実態調査票

回答者名： _____

設問 1. 下記の卒業生徒（軽度 H 群 該当）の所属科と ID 番号、および生年月日と性別をご確認下さい。

- 1) 所属科 [_____ 科]
- 2) ID 番号 = _____
- 3) 生年月日・性別 [_____ 年 _____ 月 _____ 日生 / 男子・女子]

設問 2. 卒業後の進路について、以下の質問にお答え下さい。

- 1) 該当する卒業後の進路に○をつけてください → [一般就労 ・ 福祉的就労 ・ 進学 ・ その他]
(卒業時に就労しなかった場合は、「その他」に該当します。)

☆ 本設問で「一般就労」に○をつけた場合 → 設問 3. に進んでください。

- 2) 福祉的就労をした場合 → 以下の a), b) で質問終了です。
 - a) 就労先種別は、[通所施設 () / 入所施設 ()] である。
 - b) 一般就労できなかった理由を、調査別紙の選択肢群 Aから記号で記入下さい。(複数可)
[_____]
(s)の場合 → [_____]
- 3) 進学した場合 → 以下の a), b) で質問終了です。
 - a) 進学先は、[能力開発センター () / 専門学校 () / 高等専門学校 ()
/ 短期大学 () / 4年生大学 () / その他の教育機関 ()] である。
その他の教育機関の具体名は? → [_____]
 - b) 該当教育機関に進学した具体的理由を記入下さい。
[_____]
- 4) その他の進路の場合 → 卒業時に就労しなかった場合は、a), b) 記入後、設問 5 に進んでください。
 - a) 具体的進路内容を記入下さい [_____]
 - b) 卒業時に就労しなかった場合は、その理由を、調査別紙の選択肢群 Aの中から記号で記入下さい。(複数可)
[_____]
(s)の場合 → [_____]

設問 3. 卒業時の一般就労先について

- 1) 一般就労先の詳細 [] (調査別紙の選択肢群 Bから該当する数字を記入下さい)
[25] の場合 → 具体的な業種名を記入下さい [_____]
- 2) 具体的な作業内容 [_____]
- 3) 賃金 [時給 : _____ 円]

設問 4. 卒業時の一般就労に関わる雇用促進援護制度の活用について (各選択肢のいずれかを○囲みして下さい)

- 1) 利用したか否かについて? [利用した ・ していない]
- 2) 利用した場合の制度はどちらですか? [職場適応訓練制度 ・ トライアル雇用]
- 3) 職場適応訓練制度を利用した場合、その期間はどちらですか? [半年 ・ 一年]

設問5. 卒業後の就労状況経過について

☆ 対象卒業生の卒業時の就労状況に応じて、①、②、③の何れかに進んでください。 ☆

① 卒業時の就労に何らかの雇用促進援護制度（職適やトライアル雇用など）を利用した場合（1-1）

（1-1）雇用促進援護制度終了時～2007/10/20 までの期間について

- a) この期間の就労状況 → [就労維持 () / 離職あり () → b)へ]
離職ありの場合 → その理由を、調査別紙の選択肢群Aの中から記号で記入下さい。(複数可)
[]
(s)の場合 → []
- b) この期間での再就職 → [できた () → c, d)へ / できなかった () → c)へ]
- c) 再就職に関わる就労支援に携わった支援機関の具体名をお書き下さい(複数可)
[]
- d) この期間で再就職できた場合 → 就労タイプは [一般就労 () / 福祉的就労 ()]
・就労先の詳細 [] (調査別紙の選択肢群Bから該当する数字を記入下さい)
[25]の場合 → 具体的な業種名を記入下さい []
・作業内容 [] / 賃金 [時給 : 円]

①に進まれた方へ。

本調査票の質問項目は以上です。ご協力ありがとうございました。

② 卒業時の就労に雇用促進援護制度を利用しなかった場合。(2-1)

(2-1) 卒業時から 2007/10/20 までの期間について

- a) この期間の就労状況 → [就労維持 () / 離職あり () → b)へ]
離職ありの場合 → その理由を、調査別紙の選択肢群Aの中から記号で記入下さい。(複数可)
[]
(s)の場合 → []
- b) この期間での再就職 → [できた () → c, d)へ / できなかった () → c)へ]
- c) 再就職に関わる就労支援に携わった支援機関の具体名をお書き下さい(複数可)
[]
- d) この期間で再就職できた場合 → 就労タイプは [一般就労 () / 福祉的就労 ()]
・就労先の詳細 [] (調査別紙の選択肢群Bから該当する数字を記入下さい)
[25]の場合 → 具体的な業種名を記入下さい []
・作業内容 [] / 賃金 [時給 : 円]

②に進まれた方へ。

本調査票の質問項目は以上です。ご協力ありがとうございました。

③ 卒業時に就労していない場合 (3-1)

(3-1) 卒業時から 2007/10/20 時点までの期間について

a) この期間での再就職 → [できた () → b, c) へ / できなかった () → b) へ]

b) 再就職に関わる就労支援に携わった支援機関の具体名をお書き下さい (複数可)

[]

c) この期間で再就職できた場合 → 就労タイプは [一般就労 () / 福祉的就労 ()]

・就労先の詳細 [] (調査別紙の選択肢群Bから該当する数字を記入下さい)

[25] の場合 → 具体的な業種名を記入下さい []

・作業内容 [] / 賃金 [時給 : 円]

③に進まれた方へ。

本調査票の質問項目は以上です。ご協力ありがとうございました。

平成 18 年度 高等養護学校卒業生

平成 18 年度調査での軽度 H 群非該当の一般就労卒業生 進路に関する実態調査票

回答者名： _____

設問 1. 該当する卒業生徒（軽度 H 群非該当で一般就労）の所属科と ID 番号、生年月日と性別をご記入下さい。

- 1) 所属科 [_____ 科]
- 2) ID 番号 = _____
- 3) 生年月日・性別 [_____ 年 _____ 月 _____ 日生 / 男子・女子]

設問 2. 卒業時の一般就労先について

- 1) 一般就労先の詳細 [] (調査別紙の選択肢群 B から該当する数字を記入下さい)
[25] の場合 → 具体的な業種名を記入下さい [_____]
- 2) 具体的な作業内容 [_____]
- 3) 賃金 [時給 : _____ 円]

設問 3. 卒業時の一般就労に関わる雇用促進援護制度の活用について (各選択肢のいずれかを○囲みして下さい)

- 1) 利用したか否かについて? [利用した ・ していない]
- 2) 利用した場合の制度はどちらですか? [職場適応訓練制度 ・ トライアル雇用]
- 3) 職場適応訓練制度を利用した場合、その期間はどちらですか? [半年 ・ 一年]

設問 4. 卒業後の就労状況経過について

☆ 対象卒業生の卒業時の就労状況に応じて、①、②の何れかに進んでください。 ☆

① 卒業時の就労に何らかの雇用促進援護制度（職適やトライアル雇用など）を利用した場合（1-1）

(1-1) 雇用促進援護制度終了時～2007/10/20 までの期間について

- a) この期間の就労状況 → [就労維持 () / 離職あり () → b)へ]
離職ありの場合 → その理由を、調査別紙の選択肢群 Aの中から記号で記入下さい。(複数可)
[_____]
(s)の場合 → [_____]
- b) この期間での再就職 → [できた () → c, d)へ / できなかった () → c)へ]
- c) 再就職に関わる就労支援に携わった支援機関の具体名をお書き下さい (複数可)
[_____]
- d) この期間で再就職できた場合 → 就労タイプは [一般就労 () / 福祉的就労 ()]
・ 就労先の詳細 [] (調査別紙の選択肢群 Bから該当する数字を記入下さい)
[25] の場合 → 具体的な業種名を記入下さい [_____]
・ 作業内容 [_____] / 賃金 [時給 : _____ 円]

①に進まれた方へ。

本調査票の質問項目は以上です。ご協力ありがとうございました。

② 卒業時の就労に雇用促進援護制度を利用しなかった場合。(2-1)

(2-1) 卒業時から 2007/10/20 までの期間について

a) この期間の就労状況 → [就労維持 () / 離職あり () → b) へ]

離職ありの場合 → その理由を、調査別紙の選択肢群Aの中から記号で記入下さい。(複数可)

[]

(s)の場合 → []

b) この期間での再就職 → [できた () → c, d) へ / できなかった () → c) へ]

c) 再就職に関わる就労支援に携わった支援機関の具体名をお書き下さい(複数可)

[]

d) この期間で再就職できた場合 → 就労タイプは [一般就労 () / 福祉的就労 ()]

・就労先の詳細 [] (調査別紙の選択肢群Bから該当する数字を記入下さい)

[25] の場合 → 具体的な業種名を記入下さい []

・作業内容 [] / 賃金 [時給 : 円]

②に進まれた方へ。

本調査票の質問項目は以上です。ご協力ありがとうございました。

調査別紙 高等養護学校卒業生 一般就労調査 選択肢群

【 選択肢群 A 】

一般就労できなかった、あるいは離職した理由の選択肢群

- (a) 作業に必要な体力がない (b) 作業に必要な集中力がない (c) 作業内容を理解できない
 (d) 作業が雑で仕上がりが悪い (e) 状況に応じた仕方で作業できない
 (f) 作業時間と休憩時間の区別がつかない (g) 作業の手順や段取りを組めない
 (i) 道具をなくす手順を飛ばす等の不注意 (j) こたわりによる作業中断や作業速度の遅さ
 (k) 細かい動作が苦手で作業ができない (l) 「適当に」「うまく」等の抽象的指示が理解できない
 (m) 困った時やわからない時に自分から聞けない (n) 注意されると被害的になる
 (o) 状況に応じた言葉づかいができない (p) 自己主張が強くストレートすぎる
 (q) 一度に複数の指示をすると混乱する (r) 役割分担が明確でないことはやろうとしない
 (s) 上記以外の問題 (その具体的内容を当該設問の該当枠に記入下さい)

【 選択肢群 B 】 (一般就労先の業種リストおよび福祉的就労のタイプ)

記号	
1	農牧・農牧関連業
2	建築業・建築塗装業
製造・加工業	3 鉄工業(製鋼/金属製品製造など)
	4 木工業(製材/家具・木製品製造など)
	5 紙工業(製紙/紙加工・紙製品製造など)
	6 食品製造加工業(調理・製菓・製パンなど)
	7 水産加工業
	8 せん維・衣類製造業
	9 コンクリート業
	10 皮革・ゴム製品製造業
	11 化学製品製造業
	12 一般機器製造業
	13 電子製品製造業
	14 印刷業
	15 その他の製造・加工業

記号	
サービス業	16 クリーニング業
	17 自動車関連サービス業(運輸流通関連)
	18 卸売り・小売業
	19 介護職・保健衛生サービス業
	20 ホテル・旅館業
	21 再資源回収業
	22 その他のサービス業
	23 公務員
	24 家業従事
	25 その他、1～24以外の業種(一般就労) (一般就労は、1～25の中から選択下さい)
福祉	26 入所施設
	27 通所施設 (福祉的就労は、26～27から選択下さい)

高等養護を 考える 制度設計

普通高に支援学級設置を

「特別支援学級」ではなく、今後は普通養護学校を併せて支援学級の制度も導入し、特別支援学級の設置が困難な学校に、普通養護学校を併設して支援学級を設置する。これにより、特別支援学級の設置が困難な学校でも、支援学級を設置し、障害のある生徒が普通高で学ぶ機会が増える。また、普通養護学校に併設した支援学級は、普通高の授業と合わせて、普通養護学校の授業も受け、より充実した学習が可能になる。この制度設計は、障害のある生徒の学習機会の拡大と、普通高の教育の充実を目指すものである。

受け皿拡充、道内の保護者も要請

道内では1007年度から、普通養護学校に併設した支援学級の制度が導入される。これは、普通養護学校に併設した支援学級は、普通高の授業と合わせて、普通養護学校の授業も受け、より充実した学習が可能になる。この制度設計は、障害のある生徒の学習機会の拡大と、普通高の教育の充実を目指すものである。

軽度発達障害の志願者増

道、具体的方向示せず

軽度発達障害の志願者が増えている。道は、具体的方向を示さず、普通高に支援学級を設置する。これは、普通高に支援学級を設置し、障害のある生徒が普通高で学ぶ機会を増やすことである。道は、具体的方向を示さず、普通高に支援学級を設置する。これは、普通高に支援学級を設置し、障害のある生徒が普通高で学ぶ機会を増やすことである。



普通高に支援学級を設置する。これは、普通高に支援学級を設置し、障害のある生徒が普通高で学ぶ機会を増やすことである。道は、具体的方向を示さず、普通高に支援学級を設置する。これは、普通高に支援学級を設置し、障害のある生徒が普通高で学ぶ機会を増やすことである。

普通高に支援学級を設置する。これは、普通高に支援学級を設置し、障害のある生徒が普通高で学ぶ機会を増やすことである。道は、具体的方向を示さず、普通高に支援学級を設置する。これは、普通高に支援学級を設置し、障害のある生徒が普通高で学ぶ機会を増やすことである。

普通高に支援学級を設置する。これは、普通高に支援学級を設置し、障害のある生徒が普通高で学ぶ機会を増やすことである。道は、具体的方向を示さず、普通高に支援学級を設置する。これは、普通高に支援学級を設置し、障害のある生徒が普通高で学ぶ機会を増やすことである。

普通高に支援学級を設置する。これは、普通高に支援学級を設置し、障害のある生徒が普通高で学ぶ機会を増やすことである。道は、具体的方向を示さず、普通高に支援学級を設置する。これは、普通高に支援学級を設置し、障害のある生徒が普通高で学ぶ機会を増やすことである。

普通高に支援学級を設置する。これは、普通高に支援学級を設置し、障害のある生徒が普通高で学ぶ機会を増やすことである。道は、具体的方向を示さず、普通高に支援学級を設置する。これは、普通高に支援学級を設置し、障害のある生徒が普通高で学ぶ機会を増やすことである。

普通高に支援学級を設置する。これは、普通高に支援学級を設置し、障害のある生徒が普通高で学ぶ機会を増やすことである。道は、具体的方向を示さず、普通高に支援学級を設置する。これは、普通高に支援学級を設置し、障害のある生徒が普通高で学ぶ機会を増やすことである。

普通高に支援学級を設置する。これは、普通高に支援学級を設置し、障害のある生徒が普通高で学ぶ機会を増やすことである。道は、具体的方向を示さず、普通高に支援学級を設置する。これは、普通高に支援学級を設置し、障害のある生徒が普通高で学ぶ機会を増やすことである。

発達障害のある幼児の保護者への支援の在り方について
— 支援を受けないで成長した中学生の実態から考える —

分担研究者 緒方明子（明治学院大学）

研究要旨：2005 年度は、発達障害のある中学生への支援の在り方について、A 地域を
研究対象地域として実態を概観した。その結果、中学になるまで特別な支援を受けていな
い生徒が多いこと、保護者との連携が難しいこと、支援の場が無いことが明らかとなった。
2006 年度は、中学校を対象として質問紙調査を実施し、中学校の通常の学級で特別な支
援を必要としている生徒の実態と教師が課題と考えていることを把握した。また、それら
の生徒が中学生になるまでに受けてきている支援について調査した。その結果、中学生の
5.3%が特別な支援を必要としていると学校では判断していること、またそのうち 80%以
上の生徒は中学生になるまで特別な支援を受けてきていないことが示された。

以上の結果から、2007 年度は、支援機関に結びつくことが難しい原因を明らかにする
ことを目的に保護者を対象とした調査を行った。その結果、保護者は、幼児期から子ども
の特性に関する気づきはあったものの、支援機関に関する情報が無かったこと、いつか治
ると考えていたこと等の理由により支援機関につながる時期が遅れることが示された。こ
の結果から、保護者支援の在り方として、「成長手帳」の導入を提案した。

<研究 1 >

A. 問題と目的

平成 12 年度から開始された「学習障害児
(LD) に対する指導体制の充実事業」の取
り組みの成果（文部科学省、2002, 2003）
をみると、研究協力校として学校事例
を報告している小学校は 44 校であるの
に対して中学校は 7 校に留まっている。こ
のように、中学校で発達障害について研究し
ている報告は未だ少ない。しかし、巡回相
談事業では、多くの中学校から巡回相談の
要請がある。すなわち、中学校では学校だ
けでは解決できない発達障害のある生徒の
問題を抱えているにも関わらず、中学校で
の支援の在り方に関する研究が未だ十分で
はないという実態がある。したがって、本
研究では、中学生になるまで特別な支援を
受けてきていない中学生への対応を含めて、
発達障害のある中学生への支援の在り方を
検討することを目的とする。

B. 研究方法

(1) 実態の把握

- ① 対象地域：A 地域（都市部に位置
する地域。2005 年度から特別支援
教育推進会議が開始され、同時に
巡回相談事業も開始された。）
- ② 対象校：A 地域内で、巡回相談の
要請があった中学校。
- ③ 方法：巡回相談の要請に応じて学
校を訪問し、以下の方法により、
対象生徒の実態と必要とされる支
援について把握する。
 - * 授業観察
 - * 管理職・特別支援教育コー
ディネーター・養護教諭・スク
ールカウンセラー・担任教師
との協議

（倫理面への配慮）

学校名・個人名が特定されないように地

域名は明記しない。また、授業観察時には、特定の生徒の観察ではなく、学級全体の観察であることを伝える。

C. 研究結果

(1) A 地域の中学校通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする生徒の実態について

① A 地域の中学校について

- ・ 学校数：中学校 10 校
- ・ 生徒数：中学校一約 1700 名

② 通級指導教室

中学校には設置されていない。小学校には、情緒障害特殊学級と難聴言語特殊学級が設置されている。

③ 相談事例

中学校 (生徒数)	事例 数	相談内容
A 中学校 (約 70)	7	自閉症 (学力の問題) 1、行動面の問題 2 学習の遅れ 3、読み障 害 1、
B 中学校 (約 60)	3	行動面の問題 2、不器 用 1
C 中学校 (約 80)	3	学習の遅れ 3
D 中学校 (約 200)	3	学習の遅れ 2、理解力 の問題・不器用 1
E 中学校 (約 300)	3	図形・漢字が苦手 1、こ だわり・言語 1、こだわ り・ 言葉での表現が苦手
F 中学校(約 200)	6	落ち着きが無い 2、自 閉傾向 2、学習の遅れ 2
G 中学校 (約 400)	3	状況の理解が苦手、会 話にならない・学習の 遅れ 1、 会話が単語・低学力・整 理整頓ができない

(2) 相談事例について

- ① 中学生になるまで特別支援を受けてきていない生徒が 28 事例中 26 事例。
- ② 小学校で通級していた 2 事例についても、中学校では通級による指導を

受けることができない (設置されて
いない)。

③ 医療機関・相談機関にかかっている事例は 3 事例 (投葉、母親面接)。

(3) 中学校における問題のまとめ

- ① 生徒への直接的な支援の場がない。
- ② 教師への支援が必要。
- ③ 私立中学を退学になってきた事例が増えている。
- ④ 中学生になるまで特別な支援を受けていない。
- ⑤ 学校での子どもの状態を理解しない保護者と学校との協力の在り方。

D. 考察

(1) 必要とされている支援の内容

① アセスメント

中学生になるまで特別な支援を受けていない生徒の場合、学習面の困難さと行動面の困難さを重複して示すため、本来もっている困難さあるいは障害と、二次的に生じた問題が不明確になっている。さらに、中学校は 3 年間という短い在籍期間であるため、対象児の実態をできる限り早期に的確に把握して支援を開始することが必要である。学校では心理アセスメントを実施することが難しいため、A 地域では、教育委員会と NPO の協働によりアセスメントを実施しさらに、保護者の相談に応じることもできる支援機関を設置した。

② 個別の指導計画の作成

中学校は教科ごとに担当教師が変わるため、一貫した対応を実施するためには個別の指導計画を作成することが必要である。しかし、通常の中学校では個別の指導計画は新しい概念であり、作成方法や活用方法について研修等を通じて周知していくことが必要である。

③ 生育歴・教育相談歴について

小学校からの引継ぎが行われていることが非常に少ないため、小学校での実態が不明である。小学校の学習内容の習得が十分では無い生徒に関しては、小学校に在籍しているときに既に様々な問題を有していたと思われるが、情報が無いため、生徒の実態を把握することが難しい。